

最近の輸出動向と市況

2009.5.12

(株)鉄リサイクリング・リサーチ

代表取締役 林 誠一

鉄スクラップ価格は昨年10月～11月の大暴落後、1万円/tを底にもちなおし、年明け後は16,000円/t～20,000円/tの範囲で推移、現状では20,000円/t前後となっている。この押し上げ要因に中国、韓国などの外需増があげられている。実際、3月の輸出量は89万7000tとなり、単月では史上最高を記録した。しかし、輸出を積み出し港別にみることにより、高炉リターンくずが半数近くを占めることが推測された。従って市中スクラップ価格押し上げの主要因とはなれないと考察する。

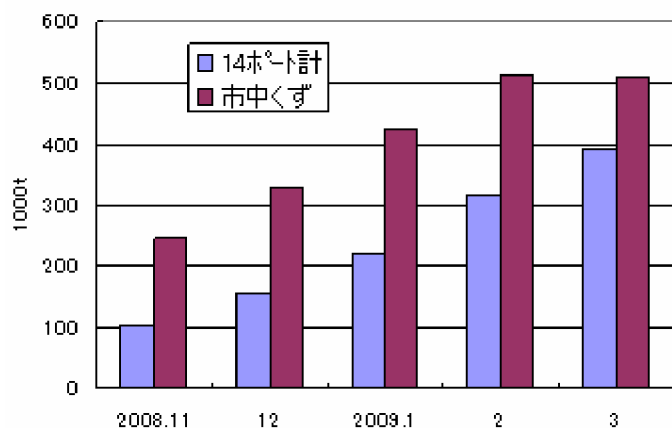
1. 2009年3月の輸出量

いままでの最高だった05年4月85万1,905tを抜き、89万7,566tとなった。また、2月に引き続き単月80万t以上の高水準が続いた。向け先では中国向けが60.9万tと全体の67.9%を占め主体となると共に、中国向けとしては単月で過去最高となった。中国向けは昨年10月までの20万t/月前後から3倍増となっている。

2. 積み出し港別にみた輸出内容の推察

3月の輸出量89.7万tは全国78ポートから積み出された。このうち高炉メーカーが近在する14ポート分を集計すると、3月は39万tとなり全体の43.4%を占めることが判った（名古屋港5.6万t、衣浦港4.9万t計10.5万tのうち1/2とみれば49.2%）。ちなみに、輸出が増加に転じる2008年11月以降を同様に集計すると、全体に占める割合は29.5%、32.1%、34.3%、38.0%、43.4%と月を追うごとに増加している（名古屋分は外数）。

これを高炉材（高炉メーカーリターンくず）と推察すると残りが市中くず（新断+老廃スクラップ+雑品）となる。この双方の動きをグラフに表すと、推計リターンくずの増加が全体を牽引



	2008.11	12	2009.1	2	3
14ポート計	103	155	221	316	390
市中くず	246	329	425	515	508
合計	349	484	646	831	898

し、市中くずの3月は逆に減少している。なお雑品は、価格低迷と中国側の需要減少（扱い業者の転・廃業）から未だに流通に活気ない状態が続いており、従って市中くずのこのような動きは老廃スクラップの動きを表すとみられる。

3. 市中くず価格との関係

一般的に高炉リターンくずは、系列電炉メーカーに分譲されるものの市中には流通しない。従って、高炉リターン分を除いた輸出量の増減が市中くず需給にかかわることになる。急角度な輸出増加は、リターンくず輸出の増加が牽引しており、市中くずそのものは国内需給をタイト化させ価格上昇につながるほど力はないと考察する。推計リターン屑を除いた市中くず50万tは昨年1-12月の月間平均45万tに近い。

北海道、東北、北陸など高炉メーカーが存在しない地域における輸出分は、本来ならその地域に存在する電炉メーカーが消費するが、減産体制にあるため、やむなく販路を海外に求めたものと見られる。地域需給ギャップのはけ口であって、積極的な海外展開ではないと推察する。

国内需給のタイト傾向は、工場発生くずの減（＝新断、鋼ダライ等加工スクラップ発生減）建築解体を始めとする老廃スクラップ発生の低迷を主因とするものであって、輸出増が主要因ではないと言えそうだ。そして国内発生の低迷は経済の全般的な回復がない限り、当分続くであろう。国内メーカーとしては輸出玉でなく国内くずをどう確保するかを主体におくべきと考える。

以 上